

ラジオ沖縄 2010 年度 第 1 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2010 年 4 月 15 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:6 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/新城和博、宮城修、委員/島田勝也、大湾清之、中村聡

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長理/森田明、審議会事務局/新垣リエ

◇審議議題:平成22年度4月番組改編全般について

◇議事の概要:4月の番組改編全般について、出席者全員で意見を述べ合った。

<局側説明>

ラジオ局にとって毎年4月と10月は番組改編の時期。今年度はナイターの中継を1日減らして水・木・金の3日間だけの中継とし、火曜日は自社制作で「悦子 DE・LUXE」という団塊の世代向けにフォークソングや映画音楽などをかける番組を立ち上げた。

その他、土曜日午後7時から「山川典二のJAZZ LIFE」というジャズの番組を作るなど、大人向けの番組を取り入れている。

10月の改編が大きめだったため、4月改編は控えめになっている。

開局50周年記念の放送としては、開局から今までにラジオ沖縄報道部が取材してきた歴史的出来事などの音を使い、夕方の「マイクアラカルト」の枠を利用しての「マイクの50年」を4月～6月の3ヶ月間にわたり放送、7月に特別番組としてまとめる。

<審議概要まとめ>

ナイターは減らして正解だと思う。時代の流れ。現代は娯楽も多様化し、インターネットが絡んできたことで市町村ごとに放送できるようになったが、そんな中聴取率が上がっていることや、タイムテーブルがカラーになったりするのは「勢いがある」ことが感じ取れて良い。

番組表は資料として保存する価値があるもの。他にも番組情報やパーソナリティ情報を入れてほしい。

「マイクの50年」はいい企画。ポッドキャストなどでアーカイブとして聴けるようにしたら良いと思う。(夜7時台の子育て世代へのコーナーに対して)夜の7時台では子育て世代が一番忙しい時間帯。コーナーの時間をずらしてみても？

ちょうど50周年の節目の年に風向きが良いのだから、周りの期待に応えて新しいチャレンジをするのもいいのでは？。

ラジオ沖縄 2010 年度 第 2 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2010 年 5 月 20 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:4 名

◇出席委員:副委員長/新城和博、委員/島田勝也、大湾清之、中村聡

◇放送事業者側出席者:制作報道部 報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ、番組担当ディレクター/阿利貴子

◇審議議題:「菊の露プレゼンツ Hirara となおぴんのおしゃべり time」聴取合評

◇議事の概要:毎週日曜日 午後3時30分～4時に放送している「菊の露プレゼンツ Hirara となおぴんのおしゃべり time」を全員で聴取し、意見を述べ合った。。

<局側説明>

2009年10月から番組開始。

県内外で活躍中のマルチタレントなおぴんと、菊の露のコマーシャルに出演し、売り出し中の宮古島出身の民謡歌手、Hirara が日曜午後にお送りするおしゃべりとリクエスト番組。

コーナー紹介・・・①ふからすふからす

→宮古島出身の Hirara が宮古の行事や観光スポットなどを紹介する。

②愛してるよ沖縄

→島々の地域巡りの番組を担当してきて、地域の祭り司会を多くこなしているなおぴんが宮古島以外の地域を紹介する。

※今回聴取したのは、全編→4月18日に開催された 第26回全日本トライアスロン 宮古島大会 会場より Hirara がレポートした箇所

後編→4月11日放送分、ゲストに石垣島出身の横目兄弟をむかえての対談部分。

<審議概要まとめ>

パーソナリティが2人とも個性的なので、番組タイトルも2人の個性が出るようなわかりやすいものにすれば良かった。

トライアスロンはレポートという形より、個人的な感想をもっと言った方が2人らしくて良い。

地域の情報が多く紹介されているところと、ゲストの生演奏を取り入れているのは良い。ゲストの特徴を引き出すことはできていると思うので、話の広げ方が重要。

ほかの地域の話を取り上げるだけでなく、徹底してほかの地域と宮古を比べて話すと、話の内容が印象に残って良い。

ラジオ沖縄 2010 年度 第 3 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2010 年 6 月 13 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:8 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/新城和博、宮城修、委員/島田勝也、大湾清之、中村聡、松田克也、友利郁子

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長理/森田明、報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ

◇審議議題:「山川典二のJAZZ LIFE」聴取合評

◇議事の概要:毎週土曜日 午後7時～7時30分に放送している「山川典二のJAZZ LIFE」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

2010年4月3日から番組開始。

元NHKアナウンサーで、ジャズに造詣の深い山川典二さんを起用し、基本的にはスタンダードジャズを中心にトーク&ミュージックという形で編成。

県内で活躍するジャズミュージシャンの方をゲストに迎え、活動の紹介やジャズ談義を行う。

これまでのゲストに沖縄ジャズ協会の照屋唯七氏、ジャズ評論家の佐野公一さんなど。

<審議概要まとめ>

土曜日は民謡・ポップス・歌謡曲と、幅広い音楽ジャンルを聴くことができる良い曜日。大人の大好きな番組ができて嬉しい。

土曜日、夜7時、AM波など良い条件がそろっている。

ジャズは酒のイメージとよく絡むので、できれば遅い時間に放送してほしい。

あまりジャズを知らない人たちのために、曲や歌手の蘊蓄をもっと入れてほしい。

番組の終わる寸前にメール紹介をしていたが、番組前半に持ってきた方が番組全体の印象がやわらかくなるのではないかと？

沖縄のジャズのレベルは全国に比べて高い。とらばら一まとジャズを融合させた作品など、隠れた名曲がいくつもあるので、

どんどん紹介してほしい。

ラジオ沖縄 2010 年度 第 4 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2010年7月15日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3階スタジオ

◇委員総数:8名 出席委員:5名

◇出席委員:副委員長/新城和博、委員/大湾清之、中村聡、松田克也、友利郁子

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長/前川英之、報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ

◇審議議題:「ラジオ沖縄 開局50周年記念特別番組・なみなみと50周年感謝祭」聴取合評

◇議事の概要:7月3日(土)正午～7月4日(日)午後6時にのべ30時間にわたり放送された、「ラジオ沖縄 開局50周年

記念特別番組・なみなみと50周年感謝祭」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

ラジオ沖縄は開局以来「ローカルに徹する」を社是に放送活動を続け、開局から50年を過ぎてもその精神は脈々と息づいている。

開局当時全国で起きていた「昭和の大合併」、そして1994年に行われた「平成の大合併」により地域の枠が変革し、現在改めて「地域に生きる人々が何を心のよりどころとして、何を絆として地域で生きているか」を検証するため、リスナーから「生まれ育った地域を感じる音」を募集。30時間の放送の間に、昔放送した番組の懐かしい音を交えながらラジオ沖縄の歴史を振り返りつつ、各地域を代表する音や個人の持っている懐かしい音を紹介し、沖縄の歴史と未来を探求していく。

<審議概要まとめ>

かつて名番組と言われていた番組を復活させたのは良かった。

昔の番組の復活は当時を思い出しながら涙が出る所が多く、時間が戻ったようだった。最近の番組は軽く作られたものが多いが、古い番組は個性的かつ内容も重く、今聴いても通用するものがたくさんある。月に1回くらいで特集してみてもどうか？

音を聞くと当時の記憶が蘇ってくるので、音の記憶の力強さをあらためて感じた。

「あの人への手紙(亡くなった方やもう会えなくなってしまった人に手紙を贈るコーナー)」は良い企画だった。今後も続けてほしい。

開局当時のリスナーからの手紙を紹介したのも非常によかったと思う。懐かしさいっぱい2日間だった。

ラジオ沖縄 2010 年度 第 5 回番組審議委員会議事録

- ◇開催日時:2010 年 9 月 16 日(木)15:00～
- ◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ
- ◇委員総数:8 名 出席委員:4 名
- ◇出席委員:副委員長/宮城修、委員/大湾清之、中村聡、松田克也
- ◇放送事業者側出席者:制作報道部 報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ
- ◇審議議題:「崎原林子の心の風景」聴取合評
- ◇議事の概要:毎週日曜日深夜0時～0時20分に放送している、
「崎原林子の心の風景」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

夜眠れない方に聴いてもらって、少しでも安らいでもらえればという趣旨で始めた番組。臨床心理士でスクールカウンセラーの崎原林子が、幼少の頃の思い出話から、日々の行事や事象などを捉えて独自の切り口で思いのままを語る20分。

10月以降、月曜夜9時30分～52分に移動予定。

<審議概要まとめ>

非常によく練られたシナリオだと思う。

「眠れない」といってもいろいろな症状があるはずなので、番組で紹介していた「2週間眠れなかったら」を、「眠った感じがしないのが2週間」や「全く眠れないのが3日間」など、思い当たる人が対処しやすいようにいろいろな事例を話してほしい。 睡眠障害・うつなどは昔は「精神病院」のイメージがあったが、今は「クリニック」など気軽に受診できるようになっているので、行きやすいようになっていることをPRしてほしい。

サポートする人向けに話した方が、身の回りにうつなどを抱えている人に気付きやすく良いのでは？

放送時間をもう少し長くして、リスナーからの質問に対して答えたりと、聴いている側とのキャッチボールができるようになるとなお良いのではないか。

放送時間は今の方が番組趣旨に合うので、時間移動しない方がいいのではないか。

ラジオ沖縄 2010 年度 第 6 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2010 年 10 月 21 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:6 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/新城和博、宮城修、委員/大湾清之、松田克也、島田勝也

◇放送事業者側出席者:制作報道部 報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ、番組担当パーソナリティー/金城奈々絵

◇審議議題:「恋はななえやえ」聴取合評

<局側説明>

アナウンサー金城奈々絵が、恋愛話・朗読やクラシックなど自分自身の興味のある分野をぎゅっと凝縮した番組で、2007年スタート。

10月以降、月曜夜9時30分～52分に移動予定。

おすすめのクラシックを作曲家の生い立ちや曲の成り立ちなどを交えて紹介したり、おすすめの短歌の紹介やリスナーのみなさんが作った短歌を紹介するなどしっとり系の30分。

<審議概要まとめ>

恋の話を番組内でする風潮が薄れてきている(現代は恋愛がらみの番組を作るとき、とかく下ネタ系に走りがち)のだが、恋愛は世間にうるおいを与えるものなので、良い番組だと思う。

声質と番組内容がぴったり。放送時間帯にも合うし、好きなことをやっている、というのが声に表れている。

構成が良い。短歌が番組を引き締めている感じがある。

メールは特に募集しなくてもいいと思う。自分の主観で話す番組として位置付けていいのではないか。

ラジオ沖縄 2010 年度 第 7 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2010 年 11 月 18 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:6 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/新城和博、委員/大湾清之、島田勝也、中村聡、友利郁子

◇放送事業者側出席者:制作報道部 報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ、番組担当ディレクター/阿利貴子

◇審議議題:「ハイサイ! 藤木勇人の大和de沖縄タイム」聴取合評

<局側説明>

本土に広がる沖縄をお伝えするラジオ番組。

東京で録って沖縄で放送という 画期的な(?)スタイルでお送りする番組です。

パーソナリティはうちな～嘶家(はなしか)の藤木勇人さん。アシスタントは、かりゆし寄席でもおなじみのシーサー玉城です。

今回は10月25日放送分のゲスト、いっこく堂さんと11月1日放送分の 平安マーキーさん・平山鉄太郎さんをご紹介します。

<審議概要まとめ>

昔沖縄はマイナスのイメージが強く、それを外に向かって発信することを嫌がっていたが、明るく話せるようになってきた。

時代が変わったから成り立つ番組、と言えるだろう。県民性を大切にしつつ、プラスの部分もマイナスの部分も話してほしい。

BGMが邪魔。もっと話を大切にするため、後ろは無音でもいいくらい。

番組のコーナーは無理やり作らなくても良い。

詰め込みすぎる感じがするので、面白ければ「今日はこのコーナーだけ」とか、2週に分けるなどの対策をとってほしい。

他のメディアで取り上げる機会が少なくなった「沖縄の頑張っている人の紹介」を率先してやってほしい。

来年は世界のウチナンチュ大会なので、東京のことは藤木さんに任せて、同じようなコンセプトで世界視点バージョンの

番組は作れないか?

ラジオ沖縄 2010 年度 第 8 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2011 年 1 月 20 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:4 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/新城和博、委員/大湾清之、中村聡

◇放送事業者側出席者:制作報道部 報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ、番組担当ディレクター/阿利貴子

◇審議議題:「翔け！沖縄 2011」聴取合評

<局側説明>

2010年12月31日 午後7時から2011年1月1日 午前5時までの10時間にわたり放送した年越し用の特別番組

「翔け！沖縄 2011」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

今年は民謡の花束の担当者勢ぞろいで、年またぎの生ライブ、リスナーの職場・自宅などへ「正月かぎやで風」の生演奏を

届ける企画あり、ウチナーグチのラジオドラマも随所随所で放送、午前4時には組踊がユネスコ無形文化遺産に登録された

ことを記念して「勝手に組踊新春公演」を行うなど、郷土色豊かに新年を祝う番組作りをした。

<審議概要まとめ>

民謡やウチナーグチがメイン、と言われると身構えて聞きがちだが、ウチナーグチのラジオドラマはすごくわかりやすく良かった。

年越しの時間帯に生演奏があったのはリアリティがあって非常に良かった。

ラジオドラマがいくつも作られていたのには感心。長丁場になる番組の中でインパクトがあって面白かった。

若い世代にウチナーグチを広めようとしている姿勢は良いと思うが、ラジオドラマにチリ鉱山のニュースを使っているのはいただけなかった。

新しいことにチャレンジした時は賛否両論出るのが当たり前なので、恐れずにどんどん新しいことをして行ってほしい。

生演奏・芝居・脚本作りなど全部を手掛けられる当銘由亮さんが民謡の花束に入った功績は大きい。5人でコンサートを行うなど、

新企画をもっと立ててほしい。

民謡に慣れていない人たちに「民謡は意外と面白い」という入口になると思うので、平日昼の番組に民謡の花束組をゲスト出演させるなど、

もっと発信できる時間を作りたい。

ラジオ沖縄 2010 年度 第 9 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2011 年 2 月 17 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:5 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/新城和博、宮城修、委員/松田克也、中村聡

◇放送事業者側出席者:制作報道部 報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ、番組担当ディレクター/安村美和子

◇審議議題:「池ポチャでもナイスボギー」聴取合評

<局側説明>

パーソナリティはゴルフ歴20年のゴルフ大好きボギーさん(愛称・本名は株式会社琉球リアルの池宮篤社長)、アシスタントに

ゴルフ歴半年・キャディー役を務める金城奈々絵アナウンサーの2人。ゴルフを通して人とのコミュニケーションや沖縄の経済、

観光、そしてリスナーから寄せられたメッセージをもとに、ラウンド中に感じたことやゴルフについての疑問、質問に対して 番組流の解釈で答えている。

ゴルフ番組ではあるがプロが話す番組ではないので、技術的な話よりもメンタル面の話題が多い。不定期で県内のゴルフクラブからゲストを招き、ゴルフ場の特徴や過去にラウンドした プロゴルファーのエピソードなども伺っている。

<審議概要まとめ>

ゴルフをしたことがある人には納得しながら聴ける番組だと思うのだが、そうでない人にとっては何を話しているのか 分かり

づらいと思う。

ゴルフをやったことがない人にも、ゴルフ場の雰囲気や想像できるように、ゴルフ場の花やホール

の雰囲気など、季節ごとの話題があると聞きやすいのではないか。番組がずっと同じような語りで進んでいくので、メリハリを

つけるために短いコーナー

などを作った方がいい。
沖縄ならではの裏話が出てくると面白くなるのでは？

ラジオ沖縄 2010 年度 第 10 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2011 年 3 月 17 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:4 名

◇出席委員:副委員長/新城和博、委員/松田克也、中村聡、島田勝也

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長(兼 番組担当ディレクター)/前川英之、報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ

◇審議議題:「池田卓の新島唄紀行」聴取合評

<局側説明>

2001年10月スタート。パーソナリティの池田卓は、陸の孤島と言われる西表島船浮の出身。高校から沖縄に移り、沖縄水産高校に進学、野球部で活躍後、シンガーになる。デビューとほぼ同時にスタートした番組も10年目に入った。番組や歌を通して、島に対する想いを訴え続けてきたが、今年3月から生まれ島の船浮に帰り、家業を手伝いながら音楽活動を続けている。それに合わせて番組も同じく3月からは西表でコメントを収録し、ネットで送ったものを編集して放送している。

彼の独特の優しい口調に島の香りが加わった癒しの番組となっており、ポッドキャスト放送がないのにもかかわらず、本土からの番組参加も多い。今回番組審議会で聴取したのは、3月15日分の放送で、3月11日に発生した東日本大震災への追悼の意を込めた内容となっている。

<審議概要まとめ>

独特の語り口で、ゆったりとした感覚に浸ることができ、ゆったり感の中にも彼の想いをきちんと伝えられていることができていくのがわかる。音楽や語りから船浮の雰囲気伝わってくるので、生まれ故郷にパーソナリティがいるまま番組を放送しているのはとても良いこと。

POD がなくても全国からのリスナーが多いのには驚き。メールを送ることでリスナーの心の受け皿になっている番組なのだと思う。

他府県の放送局・番組が心の受け入れ媒体になっているという、ラジオの役割についてあらためて考えさせられた。

ぜひ POD 配信してほしい。